

こんにちは 在宅介護支援センター です。

来所・有線電話相談
月曜日～金曜日 8:30～17:00
有線 8200
電話相談(24時間対応)
電話 62-8200
尚、お急ぎでない方は、出来るだけ平日の昼間にお願いします。

寝たきり介護の先輩から体験談

先月は、「痴呆性高齢者の介護体験談」について、掲載しましたが、今月は「寝たきりの介護体験談」を掲載します。今回も富士見町在住の方からうかがいました。

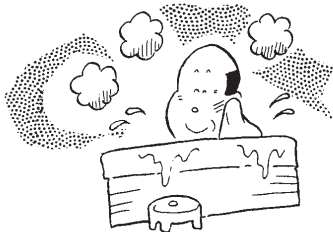
50代後半 女性

寝たきりの姑を介護して7～8年

92歳の義母は、坐骨神経痛が原因で徐々に介護が必要になりました。

2年前までフルタイムで仕事をしていました。定年で自宅に居るようになってからは、入浴が大変になったためデイサービスを週5回・月一回のショートステイを利用しています。

長い介護の中には、いろいろあるました。義母が風邪を引き、自分もひいてしまい、具合が悪いのを押しつけて食事作りや、おむつ交換をした時間が一番大変だった。又、良かれと思つて、したことが、義母に受け入れられず、辛い思いをしたこともあった。しかし今では、何か介護す



るたびに「ありがとう」と言つてもらえるようになり、今までの介護が報われた瞬間だった。

最近、一ヶ月に3～4日のショートステイをとることで、自分の時間が持て精神的にも肉体的にも開放されて、また明日から頑張ろうという気持ちになる。

職場内に、介護している人がいてその人と話すのが支えになった。介護の先輩から一言!!

支えてくれる人・協力者を持つこと。また、介護を苦と思うと辛くなるので、自分に与えられた使命、定めと割り切ることが大切。のんきな介護に心がけている。

60代後半 女性

夫を介護して20年

(1年数ヶ月前世界)

夫が病気のため、中途失明。夫はやむなく退職した。夫の希望で八ヶ岳の裾野が美しい富士見町に転居した。はじめは私も動機を持たずに、夫と共通の趣味を持ちながら、新天地での生活に慣れるための期間を過ごしました。その頃、ふれあいの介

護相談で、

「長い介護

になること

を考え、付

きつ切りで

なく、距離

をおいた介

護をするの

は？」との

アドバイス

をもらい、

5～6年勤

めに出た。

しかし、留

守(夫一人のとき)に押し売りに遭

つてしまったため、仕事を辞め、そ

の後は自宅で介護。

まもなく、娘家族が同居してくれ

たため、自分ひとりで抱え込むこと

なく、また孫が加わることで、クツ

ションともなり大変助けられた。

介護保険が始まる前、自分が病気

になり入院したことがありましたが

主治医が、夫のことまで配慮し、入

院させてくれたことは、今でも心か

ら感謝しています。

介護保険が始まり、あららぎに入

所・デイケア・訪問診察・訪問看護

などを利用して在宅中心で介護して

きましたが、寝たきりになった最後

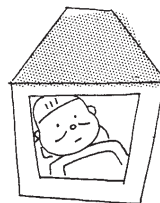
の8ヶ月が、過去20年間の介護の中

でもっとも充実し、しかも心穏やか

な期間だったように思います。

うれしかったことでは、寝たきり

になった夫の入浴方法に悩んでいた



折、浴室の改装と、水回り用の車イスの使用で自宅入浴ができたこと。

このときの主人の満足げな表情を見たときは、それまでの介護の苦勞など吹き飛んでしまふほどうれしかった。又、2～3日後に、「また風呂に入れてくれ」といつてくれました。入院していたら経験できない喜びがありました。

夫と二人だったときは、些細なことでも、声を荒げることもあった主人が、孫の同居で表情も和らぎ、穏やかになりました。又、孫たちも祖父の介護を生活の中で経験したことで、現在も障害者にさりげなくかわわれ支援できるようになっています。しかも、在宅で穏やかに最後の日を迎える祖父の姿と、それを取り巻く家族の姿に接したことで、人間の命の尊厳について身をもって体験できたように思います。

介護の先輩から一言

介護は長丁場なので、サービスはできるだけ利用して、応援してもらうのが良いと思います。寝たきりになったら、できれば環境を変えずに、自宅で看てあげられると良いのでは？今は、地元の病院が、在宅にいてもしつかり応援してくれる。どこかに預けてしまうと、夜もかえつて気になり落ち着かない。「病気を治すのでなく、本人が、いかに穏やかに最後の日を迎えられるか？」を考えてみると、誰もが、「住み慣れた家で・・・」と思うのではないのでしょうか？